

公開情報 2011年1月～12月 年報

院内感染対策サーベイランス 新生児集中治療室部門

【新生児集中治療室（NICU）部門におけるサーベイランスの概要と目的】

本サーベイランスの目的は、新生児集中治療室（NICU）で発生する院内感染症の発生率とその原因菌に関するデータを継続的に収集・解析し、NICUにおける院内感染症の発生状況等を明らかにすることである。

サーベイランスの対象としている感染症は、敗血症、肺炎、髄膜炎、腸炎、皮膚炎、その他であり、対象とする原因菌はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）、メチシリン感性黄色ブドウ球菌（MSSA）、コアグラゼ陰性ブドウ球菌（CNS）、緑膿菌、カンジダ、その他である。これらのデータを出生体重別、感染症別、原因菌別に集計し、NICUにおけるベンチマークとなる情報を提供している。

【図表】

1. 体重別入院患児数・感染症発症患児数
2. 菌種別感染症発症患児数
3. 感染症分類別感染症発症患児数

【解説】

1. 体重別入院患児数・感染症発症患児数

2011年 年報（2011年1月～12月）では74医療機関からデータの提出があった。総入院患児数16337人中、805人（4.9%）が感染症を発症した。

出生体重別の感染症発生頻度は、超低出生体重児（～999g）では919人中253人（27.5%）、1000g～1499gの児では1334人中113人（8.5%）、1500g以上の児では14084人中439人（3.1%）であり、超低出生体重児（～999g）のほうが高かった。

2. 菌種別感染症発症患児数

感染症発症患児805人の感染症原因菌は、MRSA120例（14.9%）、MSSA76例（9.4%）、CNS59例（7.3%）とブドウ球菌属が全体の30%以上を占めた。次いでカンジダ42例（5.2%）、緑膿菌30例（3.7%）と続いた。またその他の菌種の報告は226例（28.1%）、菌不明は252例（31.3%）であった。

公開情報 2011年1月～12月 年報

院内感染対策サーベイランス 新生児集中治療室部門

3. 感染症分類別感染症発症患児数

感染症発症患児 805 人の感染症分類は、肺炎 186 例（23.1%）と敗血症 169 例（21.0%）が全体の約半数を占め、皮膚炎 84 例（10.4%）、腸炎 42 例（5.2%）、髄膜炎 14 例（1.7%）と続いた。

データの精度管理

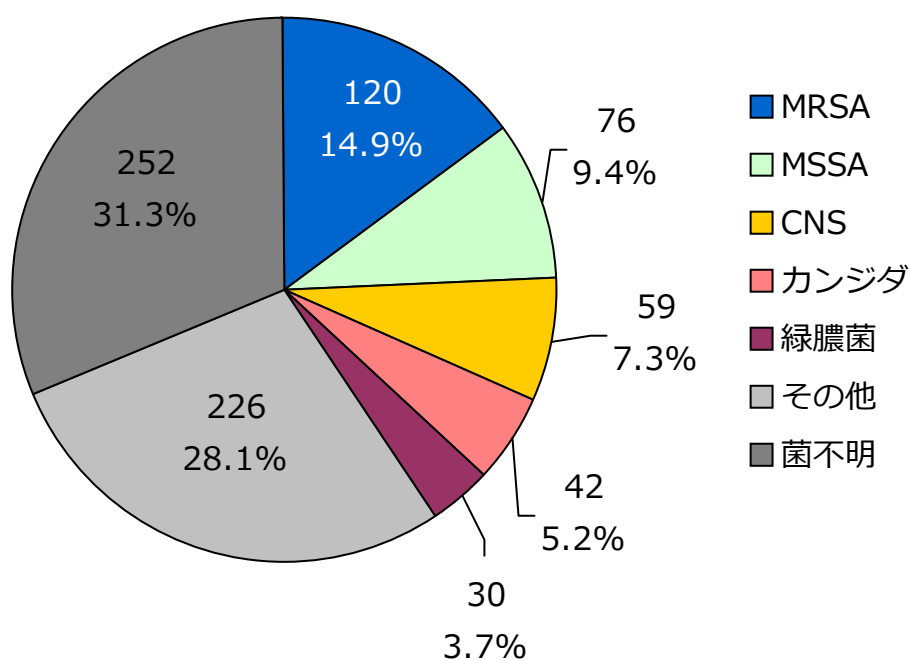
各感染症の年間発生率が高く逸脱したものを精度管理の対象としたが、該当する医療機関はなかった。

1. 体重別入院患児数・感染症発症患児数

体重	入院患児数	感染症発症患児数	感染症発生率
～999g	919	253	27.5%
1,000～1,499g	1,334	113	8.5%
1,500g～	14,084	439	3.1%
合計	16,337	805	4.9%

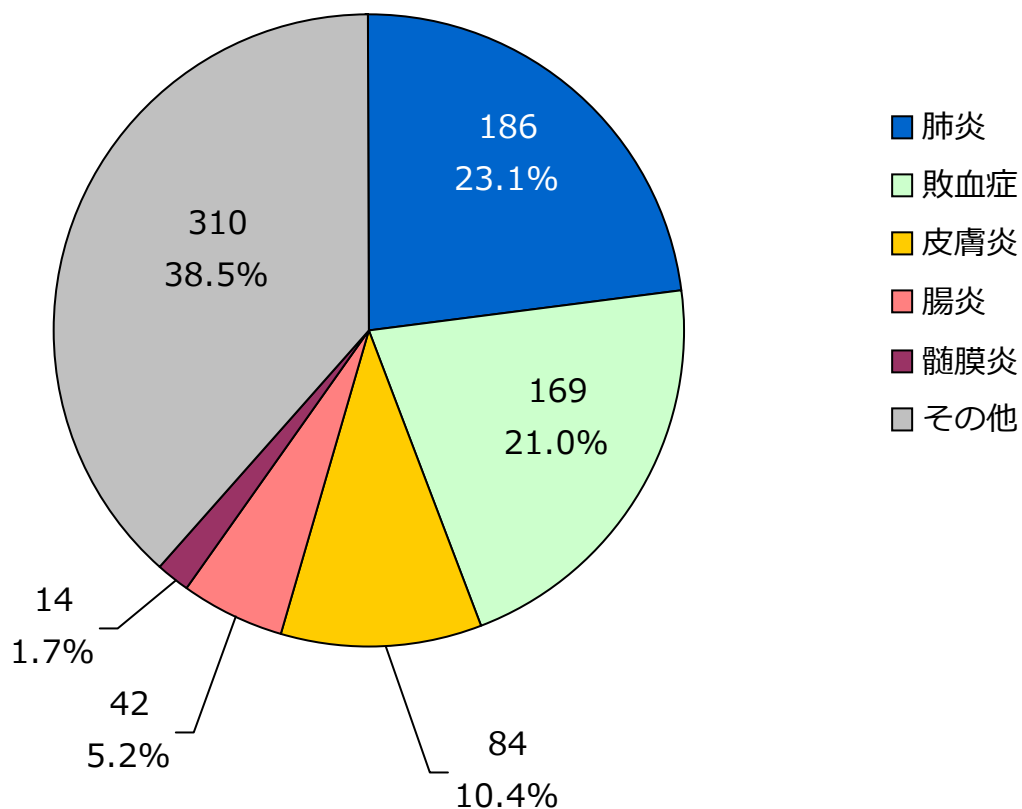
(集計対象医療機関数：74)

2. 菌種別感染症発症患児数 (N = 805)



(集計対象医療機関数 : 74)

3. 感染症分類別感染症発症患児数 (N = 805)



(集計対象医療機関数：74)